ゆずりは通信

第 28 号　平成 28 年 4 月 1 日（年 2 回発行）
発行：ゆずりはの会事務局
電話：0565-35-7182
Ｅ－ﾒｰﾙ：takekaki@hm8.aitai.ne.jp
ホームページ；
http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/

ゆずりはの会　平成 27 年 11 月定例会のメモ

11 月 10 日（火）午後 7 時～　福祉センター34 会議室　16 人が参加

＊10月の定例会で、基幹包括支援センター　松村所長の「介護保険制度の現状と今後」と題するお話を聞いて、意見交換をした。介護を担う新たな人材の発掘が・育成が必要である。村松さんは、違う職種の労働者の参画、例えば、新聞配達員が、「ごみを出す、電球を交換する」 などのちょっとした手助けをおねがいすることを提案された。

国は、地域包括ケアシステムを普及させようとしている。理論は、理想を描けても誰が担うのか具体的な設計図はなく手探りが続いている。「ささえ合いネットをつくろう」という呼びかけもある。誰が中心となり何をやろうとするのか、地域包括ケアシステムと同じなのか、違うのかなど、まだ、多くの議論が要る。

＊民生児童委員に「生活困窮者をさがせ」という指示が出された。一般の人でしか過ぎない民生委員では不可能である。行政は各人の所得を把握しているのだから、対象リストを作成し、民生委員にはその確認を依頼するというのが現実的である。なぜそのようにできないのか。

＊NHK テレビ「サキどり」の紹介（11 月８日）

① 金沢：色々なひと：高齢者、障害がある子どもたち、学生などが、集まって住む福祉施設が、金沢市にできた。見学者が絶えない。

② 横浜：サービス付き高齢者住宅と一般向けのマンションを混在して作る。

③ 長久手：地域共生ステーション。閉店したスーパーの空き店舗を活用。施設の規模、場所、運営方法などを、行政でなく、住民がまずから決める。

各地で、支え合い・生きがい作りの仕組みを作る試みが行われている。豊田市でも新設の中学校が交流館と併設された（第 2 梅坪台中学校・交流館開設準備委員会）。地域と教育施設を結びつける試みが始まろうとしている。

このゆずりはの会でも、どこか先進的な試みを行っているところを見学する機会を持てないでしょうか。

ゆずりはの会　平成 27 年 12 月定例会

12 月 8 日（火）午後 7 時～　福祉センター34 会議室　11 人が参加

＊日本リビングウィル研究会東海地方会で行われた講演の紹介。

① 「痛み、苦しみのない最後をもとめて～緩和ケア在宅医療を中心として」
講師：中島一光さん　大府市のいきいき在宅クリニック院長

② 講演の概要は、当日配布したものを参考にしてください。

③ ガンにかかったら、他の病気でもひどい痛みに苦しむ時には、もっとモルヒネを使って、安らかに過ごしましょう、というメッセージが伝えられた旨を話したところ、会員からは、モルヒネは、麻薬である、悪いものだと、やはり否定的な反応が強かった。

＊自分の周囲には、ひとり暮らしの高齢者がたくさんいる。いろいろな施策が語られているが、この人たちに支援の手は届いていない。
その意見に対して、支援を求めるべく本人から訴える努力が必要なのではないか、との意見も出た。

＊新聞受けに新聞や郵便がたくさん溜まっていた。大家さんなどに連絡して室内に入ったところ住民が亡くなっていた。隣近所で見守りはできないだろうか。回覧板は必ず手渡しで渡すとか、出かけるときに、留守をお願いします、とかちょっとした交流で支え合いの助けになる。

＊在宅医療支援診療所について、豊田市では幅広く行われていないように思われる。
豊田市では、地域医療センターが建設される時に、医療センターが、休日や夜間を受け持ち、開業医は昼間の診療を受け持つとの役割分担が、決められた経緯がある。
その後予測以上に、高齢者が増加して、それでは対応できなくなっているのに有効な対策がとられてこなかった。今は、地域医療センターが、中心になって動き出したので、少しずつ進んでゆくのではないか。

ゆずりはの会　平成 28 年 2 月定例会

2 月 9（火）午後 7 時～　福祉センター34 会議室　13 名が参加

＊新しい人が参加
竹田さん　：　トヨタ自動車から、関係会社に移り、米国で5年間勤務した。今は退職。
大間知さんは、職場の同僚で、ゆずりはの会の紹介を受けたので、参加。

＊あいちホスピス研究会公開講座
28年は、4回の講座が開かれる。
希望者は、出席ください。2人目の参加費も会から補助

＊ほっとかんに診療所が開設する、との新聞記事。
ほっとかんに、暮らす人だけの診療ではなく、周辺の住民の世話もしてゆきたい。

＊抜粋のつづり
「抜萃のつづり」は、書籍や雑誌、新聞から心に残る文章・記事を抜粋し、まとめた書物。
金庫製造の熊平製作所が、発行している雑誌で、創業者の熊平源蔵が社会への感謝、報恩のために昭和 6 年に創刊した。今回は、内藤いずみさんが寄せた「やさしさと強さを取り戻す方法」を読んでくださった。添付資料を参照ください。

＊ガンの新薬について
がん免疫療法「小野薬品のオプジーボ」 がん細胞を抑制する能力を持っている免疫細胞を活性化できる薬品。　京都大学客員教授：本庶佑氏が開発に貢献

＊豊田市の中心街の活性化・開発について
審議会の委員になって話し合いをしている。委員の中には、中央の審議会に参加している人もいるが、そちらでも、良い案があるわけではないようだ。

＊ひとり暮らしの高齢者に、
「支援を差し伸べる」という施策が話し合われているが、周囲に居るひとり暮らしの老人には、その手が伸びてきていない、自分達は一体どうなるんだなど、そんな話ばかりしている。

ゆずりはの会　平成 28 年 3 月定例会

3 月 8（火）午後 7 時～　福祉センター34 会議室　12 名が参加

＊抜粋のつづり　のコピー配布　栗山さん
「抜萃のつづり」は、書籍や雑誌、新聞から、心に残る文章・記事を抜粋し、まとめた書物。
金庫製造の「熊平製作所」が、発行している雑誌で、創業者の熊平源蔵が社会への感謝、報恩のために昭和 6 年に創刊した。今回は、その 75 号を栗山さんがコピーをして配ってくださった。

＊あいちホスピス研究会総会で、 三つ葉在宅クリニック：中村医師の講演を紹介　竹内さん
8 人の医師が、医院という施設を持たないで、訪問による医療を続けている。
3 つの事例症例を紹介しながら、患者・家族とのかかわりで、意思疎通の難しさや、医師としての対応の仕方、告知のタイミングなど、迷いつつ診療を続けている。その経験から、私達が考えておくことを示唆してくれた。

＊本の紹介「ひとり家で穏やかに死ぬ方法」
著者　：　在宅ホスピス医　川越厚　　発行：主婦と生活社

患者が多くなってきて、以前は「家で最期」を選ぶことができた時代から、「家しかない」
つまり本人が病院や施設を希望しても、満員で入れない時代になった。
「一人で、家で　最後」なんて可能だろうかと不安に思っている人に、「できる」と答えて
くれている内容。医師を中心に看護師、ヘルパー、ボランティアによるチームが患者を
支えている。

＊旅立ちまでの身体の変化と対処法
インターネットに掲載されていた文章を紹介。
死が近づくと、どんな状態になるかを書いてある。自宅で世話をしている場合、状態の変化に
対して、まるで知識がないと、どう対処してよいかわからず、救急車を呼ぶことになる。
こうした時にいくらか冷静に対処できるだろう。

＊アクリルアミド　林さん
食品に含まれるアミノ酸の一種：アスパラギン酸と糖が化学反応を起こして生成される物質
で、発がん性物質と考えられている。食物を加熱しすぎると発生しやすい。
パンは軽い焼き色が良い。焼くよりも、蒸し煮を勧める。

＊東日本大震災の体験談から　林さん
3 月 6 日に、福祉センターで行われた講演会
避難所が各地に作られたが、障がい者用がなくて困った。
豊田市では準備されているだろうか。準備されているか、あるいは特別に施設と契約され
ているなら、そのことを市民に周知すべき。

＊「リンク」のこどもの作品展　安斎さん
「リンク」は、障がいを持つ子供の親の集まり。足助のひな祭りフェスタに合わせて、作品の
展示会を開催した。障がい者の子供が、和紙を使い、トールペイントを使って飾った作品で、
将来の自立につながることを願っている。今回は、豊田市からの補助金を得て、かなり大掛
かりな活動を進めることができた。

＊民芸の森　本多さん
豊田市平戸橋町にある故・本多静雄氏（豊田市名誉市民）の屋敷跡。「民芸の森」として
本多静雄氏の偉業や平戸橋の歴史を後世に伝え、豊田らしい民芸を育んでいく場として
活用される。4 月初めに、開園記念として、狂言公演やお茶会などが行われる。

＊ゆずりはの会　の開催時間
夜の 7 時という開催時間が、ある人にとっては、参加しにくいのではないか、と提起したが、
昼は昼で、いろいろな活動とダブることが多い。当分の間現在の時間で続けよう、という
ことになった。